

JAL の A350-1000、羽田 - ニューヨーク線に就航



羽田 - ニューヨーク線に就航した JAL の A350-1000 初号機

日本航空 (JAL) の A350-1000 が 1 月 24 日に羽田 - ニューヨーク線で運航を開始しました。初便出発前に羽田空港で就航セレモニーが開催され、JAL の赤坂祐二代表取締役社長とエアバスのノースアジア地域代表兼エアバス・ジャパン代表取締役社長のステファン・ジヌーらが出席しました。

セレモニーで JAL の赤坂社長は、「低燃費で低騒音の A350-1000 は従来の航空機の約 25% 燃費が良く、CO₂ 排出量の削減ができます。ニューヨークまではこれまでドラム缶 800 本くらいの燃料を積んでいましたが、200 本程度少なくて済みます」と述べました。また、「シートやインテリアだけでなく、

機内サービス全般もリニューアルしました。ぜひ新しい JAL のサービスをご体験ください」とあいさつしました。

エアバスのステファン・ジヌーは、「私たちは A350-1000 が JAL の国際線の旗艦機として就航する日を心待ちにしておりました。JAL が長い時間をかけて作り上げた美しいワールドクラスのキャabin は、日本のおもてなしの真髄を体現するもので、その洗練された空間にはだれもが賛嘆するでしょう」と述べました。

1 月 26 日には JAL の A350-1000 の 2 号機も羽田 - ニューヨーク線に就航し

ました。JAL は今後、羽田 - ダラス・フォートワース線、羽田 - ロンドン線への投入を発表しており、順次、A350-1000 の運航を拡大していきます。

contents

JAL の A350-1000、
羽田 - ニューヨーク線に就航

2023 年度民間航空機部門の受注数、
納入数を発表

航空機のライフサイクル・サービス
センターを設立

トゥールーズの新最終組立工場から
航空機を初納入

デルタ航空、A350-1000 を 20 機発注

エバー航空、
A350-1000 と A321neo を発注

ZEROe 開発センターを
独シュターデに開設



羽田空港で開催された就航セレモニーでのテープカット

2023 年度民間航空機部門の受注数、納入数を発表

- 735 機の納入、2022 年度より 11% 増
- 2,319 機の総受注数 (2,094 機の純受注数)、うち A320 ファミリーは 1,835 機、A350 ファミリーは 300 機の受注
- 燃費効率の高い最新世代機への更新に向けた強い需要の回復と加速を裏付け
- 2023 年末の受注残は 8,598 機

エアバスは 2023 年度の民間航空機の受注数および納入数を発表しました。それによると、民間航空機を 87 社へ 735 機納入し、総受注数を 2,319 機 (純受注数は 2,094 機) 獲得しました。また、受注残は 2023 年 12 月末時点で 8,598 機になりました。

エアバスのギヨム・フォーリ CEO は次のように述べています。「2023 年は目標の上限に達する非常に多くの納入数と受注数を記録し、エアバスの民間航空機事業にとって画期的な年となりました。目標を達成することができたのは、グローバルな生産システムの柔軟性と能力が向上したこと、燃費効率の優れた最新のエアバス機への機材更新需要が加速したことなど、様々な要因が挙げられます。この素晴らしい成果を実現に導いてくれた顧客、パートナー企業、エアバスのチームに心から感謝を申し上げます」

クリスチャン・シェラー民間航空機事業 CEO は次のように述べています。「当初、航空市場の回復が見られるのは 2023 年から 2025 年の間と見込んでいましたが、実際 2023 年に単通路型市場と並び、



2023 年度は過去最高の受注数を獲得

ワイドボディ機市場も予想よりはるかに早く急回復しました」また、「尽力してくれたエアバスのチームに感謝し、なにより、エアバスをパートナーとして信頼していただいたお客様に深く感謝いたします。A320 と A350 の受注をこれほど多く得たことはなく、また、新しく 7 社から A350-1000 を発注いただいたことも大変嬉しく思います。旅行需要が復活し、本格的な上向き傾向を見せています。新たに納入した 735 機の燃費効率の高いエアバス機が運航され、低炭素社会の未来に寄与できたことを誇りに思います。このような高い成果を得たことにより、私たちは今後も引き続き、革新的でより持続可能なソ

リューションを追求していきます」と語りました。

2023 年度の納入内訳

	2023	2022
A220 ファミリー	68	53
A320 ファミリー	571	516
A330 ファミリー	32	32
A350 ファミリー	64	60
合計	735	661*

* 2021 年 12 月に受注した 2 機 (エアフロートの A350-900) が国際的な対ロシア制裁のため納入不可能となり、その 2 機分を差し引いた数。

航空機のライフサイクル・サービスセンターを設立

エアバス・ライフサイクル・サービスセンター (ALSC) が中国の成都で開所しました。当センターは航空機のライフサイクル全体を管理するソリュー

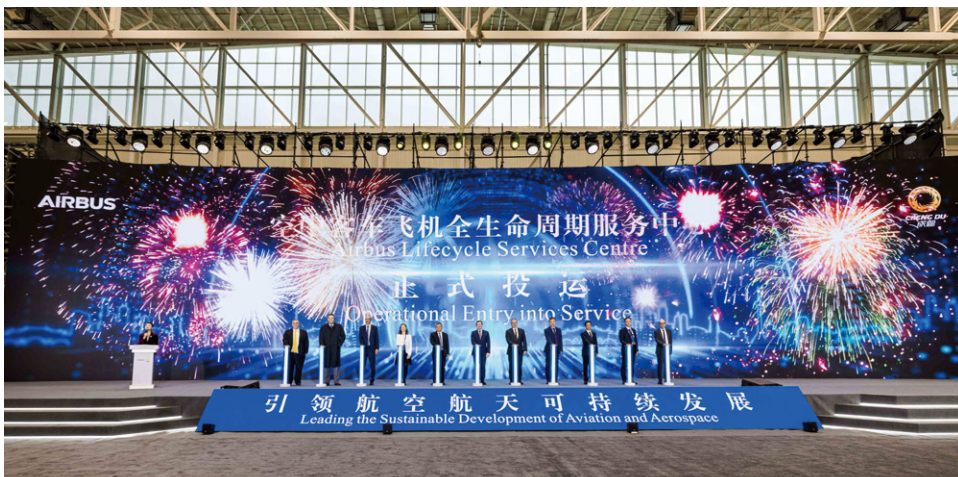
ションを提供します。様々な航空機の駐機、保管から整備、アップグレード、改修、解体、リサイクルまでワンストップサービスで展開し、また、解体に

よって生じる中古部品の管理提供も行います。

ALSC は、欧州航空安全庁 (EASA) と中国民用航空局 (CAAC) から認定されています。

センターは 71 万 7,000 平方メートル広さを持ち、125 機の航空機を保管することができます。これから 2025 年にかけて段階的に事業を強化し、従業員を最大 150 人雇用する予定です。

センターは、エアバスとターマック・エアロセーブ、成都市、エアバスの子会社サットエアのジョイントベンチャーで、一元管理のもとで運営されます。ターマック・エアロセーブは機体の効率的な保管、解体、リサイクルにおける 15 年以上の実績を持ちます。センター内に設置されたサットエアは、経年機を引き取り、中古部品の取引と供給を行います。同センターに保管される航空機の 75% は、再び飛行することが見込まれています。残りは解体され、機体重量の約 90% が再利用されます。



中国成都にエアバス・ライフサイクル・サービスセンターを設立

トゥールーズの新最終組立工場から航空機を初納入

エアバスは、仏トゥールーズにある最新の A320 ファミリー最終組立工場（FAL）で製造された初の航空機を引き渡しました。

引き渡されたのは A321neo で、トルコを代表する LCC のペガサス・エアラインズが運航します。A320 ファミリーの最新の FAL は、もともと A380 の FAL だった「ジャン＝リュック・ラガデル」に設置され、A321neo の世界的な需要の増大に対応します。同機は現在、A320 ファミリー受注残の約 65%を占めています。

ペガサス・エアラインズは合計 93 機のエアバス機を保有しています。その内訳は、A320ceo が 6 機、A320neo が 46 機、A321neo が 41 機。さらに今後 68 機の A321neo を受領する予定です。

エアバスは、今回のペガサス・エアラインズへの引き渡しを皮切りに A320 ファミリーの生産数増加を促進し、トゥールーズの新 FAL と独ハンブルク、

米モビール、中国天津の A320 ファミリー FAL 全体で 2026 年に A320 ファミリーの月産を 75 機とする目標を掲げています。



新しい A320 ファミリーの最終組立工場から初めて引き渡された A321neo

デルタ航空、A350-1000 を 20 機発注

デルタ航空が A350-1000 を 20 機発注しました。同社が A350-1000 を導入するのは初めてとなります。デルタ航空は現在エアバス機を 450 機以上運航

しており、A220 から A350-900 まですべてのエアバス機ファミリーを保有しています。さらに今後 200 機以上が引き渡される予定です。

効率性の高い A350-1000 を導入することによって、燃料消費と排出量を削減し、運航コスト、整備コストを抑えることができます。また、同機が備えるエアバスの革新的客室「Airspace」は静かで広々とした客室を備え、快適な居住空間を提供します。幅広い座席に高い天井、カスタマイズ可能な照明によって長時間の飛行による疲労や時差ぼけを軽減します。

世界最新の効率的なワイドボディ機である A350 は 300 席から 410 席市場における長距離用航空機のリーダーで、近距離路線から 9,700 海里的超長距離路線まで幅広い市場に効率的に対応します。新設計の A350 は最先端技術と最新の空力設計、新世代エンジン、最新素材を採用し、旧世代機と比較して燃費、運用コスト、CO₂ 排出量を 25%削減。騒音影響範囲を 50%削減しています。



A350-1000 を 20 機発注したデルタ航空

エバー航空、A350-1000 と A321neo を発注

台湾のエバー航空が長距離用の A350-1000 を 18 機と A321neo を 15 機発注しました。これにより、エバー航空はグローバルな航空会社として長距離便の需要に対応します。また、A321neo によって既存の地域路線ネットワークで新たなレベルの効率性を提供します。

A321neo は A320neo ファミリーの最大機種で、新型エンジン、シャークレット、効率的な客室など最先端技術を導入し、燃費を 20%削減しています。2016 年にローンチしてからこれまでに 5,600 機以上の受注を世界中の 100 社以上から獲得、およそ 65%の市場シェアを保持しています。



A350-1000 と A321neo を発注したエバー航空

ZEROe 開発センターを独シュターデに開設

エアバスは、独シュターデの敷地内に水素技術の ZEROe 開発センター（ZEDC）を開設しました。同センターでは、極低温液体水素を貯蔵、供給するための複合材技術の開発を加速します。

エアバスは長年、ドイツにおいて、複合材の材料および製造方法の両方の面で技術開発をリードしてきました。

シュターデの ZEDC では主に、コスト競争力のある複合材を利用した軽量水素システム（極低温水素タンクなど）の開発を行います。液体水素用複合材タンクの基本部品から組み立て、製造関連の試験に至るまで製品および生産能力の研究、開発に取り組みます。このタンクの開発では、エアバスの他の施設とも連携します。

ZEDC は、航空宇宙業界の脱炭素化に向けた技術開発センターのひとつです。エアバスの独ブレーメン、仏ナント、西マドリッド、英フィルトンにある施設と協力し、2035 年までに水素旅客機を実現させる目標達成に取り組んでいきます。



エアバスの水素旅客機コンセプト ZEROe



水素旅客機コンセプトのひとつ、ターボプロップデザイン

2023年度12月末時点の受注・引き渡し・運航機数

機種	総受注機数	総引き渡し機数	運航機数
A220 / A318 / A319 / A320 / A321	19,374機	11,577機	10,876機
A300 / A310	816機	816機	271機
A330 / A340	2,148機	1,968機	1,671機
A350	1,206機	585機	585機
A380	251機	251機	233機
合計	23,795機	15,197機	13,636機